

令和3年度

学校評価総括評価表

徳島県立富岡西高等学校

◎ 1 確かな学力を身につけさせる (教務課, 進路・情報課)

		自己評価		学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価				
		評価指標	評価指標の達成度	評価	総合評価		
確かな学力を身につけさせる。	(全校レベル) I) 学習指導の充実 II) 課外学習の充実 (分掌レベル) 1) 進学型単位制の特徴を生かした魅力ある教育課程を編成する。	1) ① 令和4年度より施行される新教育課程作成にあたり、教育課程検討委員会を2回以上実施する。 ② 新教育課程編成についての外部研修等を積極的に受講し、内容を校内で共有する。	1) ① 教育課程検討委員会を2回実施し、特に大学入学試験と新教育課程との関連性からより生徒にとって教育効果の高い教育課程についての検討を行った。 ② 鳴門教育大学教授の前田洋一先生を講師として招いて研修会を実施したり、校内研修を行った。新教育課程と評価についての研究を進め、全教員に周知することができた。	B	(評定) B (所見) 生徒にとってより教育効果の高い教育課程について検討を行った。 来年度から実施される観点別評価について、より深く理解することができた。	教員サイドが謙虚である。こうした学校評価において、数値目標をかかげ、その目標に向けて努力できているのだから、もっと高い評価をつけてもよい。計画通り実施できたらB評価であることを誰でも分かるようにしてほしい。	○ 教科情報等、新たに追加される共通テストの科目に対応できる効果的な教育課程を検討する。 ○ 観点別評価について、各教科、科目において具体的な評価方法を策定するための研修を行う。
	2) 教科指導方法を工夫改善し、分かる授業、学力のつく授業を実践する。(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」)	2) ① 相互に授業参観を行う。期間は6月と11月のそれぞれ1ヶ月間とし、2回ずつ参観を行う。少なくとも年1回は、担当教科外の授業を参観し、授業作りにおける教科横断的な視点を養う。 ② 授業評価を10月に実施し、肯定的な評価を90%以上とする。その結果を10月以降の授業改善につなげる。	2) ① 平常時の相互授業参観に加え、初任者研修をはじめとする各種研修会の研究授業、またSSH事業における公開授業を参観することにより、ほぼすべての教員が他の教員の授業を3回以上参観することができた。特に11月の授業参観に向けては、新課程を意識した授業参観シートを改定したり、参観をチームで行うようにして、教科横断的な視点を養うことができた。 ② 授業評価を10月に実施し、肯定的な評価が97.2%であった。	教員一人ひとりが授業力向上に対して、高い意識を持ち、積極的に取り組むことができていた。また、研究授業について可能な限り、同一教科の教員が参観できるよう時間割の配慮した。 授業評価による生徒の意見を反映させながら、教員一人ひとりがわかりやすい授業展開ができるよう、積極的に取り組んでいる。特に今年度は休業中にオンライン授業を行ったため、テレビ会議システムや学習活動支援サービスに関する校内研修も行った。	A	システム手帳をうまく活用できていないという評価は昨年もあった。生徒に対してシステム手帳の意味づけをしっかりとすることが重要である。生徒と教員のコミュニケーションツールとして活用できるようにしてほしい。システム手帳という名称が生徒に身近ではないように感じられるので、生徒に名称を募集するなど、生徒が親しみを持てるものにする必要があるのではないか。また、保護者にとってもシステム手帳はよいものだと考えられるので、保護者の理解も深めることができれば、生徒の活用の仕方も変わるのではないかと。	○ アンケート項目について検討を行い、改善したい。特にICT活用についての項目を新たに設定したい。
	3) 学習習慣の定着と基礎学力の向上を支援する。(知識・技能)	3) ① 基礎学力を測り、今後の指導に活かすためスタディサポートを実施する。また、学習習慣の定着を図るため、1・2年次は年4回、3年次は年2回課題テストを実施する。 ② 学習時間の記録や校外における取組について、「富西システム手帳」を活用することにより、自己管理できるよう指導を行い主体性を養う。	3) ① スタディサポートを1年次は年2回、2年次は年1回実施する。また、学習習慣の定着を図るため、1・2年次は年4回、3年次は年2回課題テストを実施する。 ② 講演会等があれば、システム手帳を持って行き利用するよう呼びかけた。	予定通り実施し、生徒の家庭学習習慣の定着につなげることができた。 行事等があれば自ら準備する習慣を身につけさせる必要がある。	B		○ SSH事業で様々な活動を行っているので、しっかりと記録をできるように指導を続ける。
	4) 理数科教育を充実させ、応用力や発展的な学力の育成を図る。(思考力・判断力・表現力)	4) ① 難関大学、ブロック大(岡山大・広島大等)の合格者をだす。 ② 駿台全国模試(ハイレベル)を積極的に受験させる。	4) ① 現段階でブロック大以上の合格者は5名である。名古屋大学1名、岡山大2名、大阪公立大1名、横浜国立大1名。 ② 応用クラスと理数科は基本的に受験するように指導を行い、約60名が受験した。	昨年度は、難関大、ブロック大以上の合格者がいなかったが、今年度はすでに5名合格している。SAでした研究をうまく活かしている。	A		○ 難関大、ブロック大合格者を継続的に出していくには、生徒の状況を見て、やる気を持たせられるような声かけや、オープン模試や校外での難関大、ブロック大進学希望者との交流会への積極的参加を促すなど、仕掛けを進路・情報課と担任とで連携してやっていかねばならない。
	5) 「朝学」を計画的に実施し、有効活用を図る。(知識・技能)	5) 「朝学」の10分間を活用し、各教科の小テストや課題学習の実施を計画的に行い、知識や技能を向上させる。	5) ① 英語、数学、国語において小テストを計画的に実施するとともに、課題学習も実施した。	生徒のモチベーションを保つことが難しかった。意欲をかき立てる工夫が必要である。	B		○ 生徒の基礎基本の定着につながるよう、小テストをしたり課題を与えたりするなど教科、時期により工夫が必要である。

<p>6) 補習授業を充実させる。(知識・技能)</p>	<p>6) ① 補習では、大学入学共通テストで全国平均点以上の獲得と志望校に合格する学力をつけることを目指す。早朝補習と8限目補習、大学入学共通テスト後に国公立大学の二次対策補習・私立大学一般入試対策補習を希望者対象に実施する。(3年次)</p> <p>② 土曜日を活用した補習を希望者対象に2・3学期で12回実施する。(1・2年次)</p> <p>③ 長期休業中の補習の出席率を90%以上とする。(1・2年次)</p> <p>④ 外部より講師を招き特別授業を実施する。</p>	<p>6) ① 早朝補習、8限目補習は、6月以降計画通り実施した。大学入学共通テスト後は、国公立大学の二次対策補習・私立大学一般入試対策補習を19日間進路別クラス・個別対応で実施した。3年次の補習については、早朝補習で、生徒の進路希望の変更に対応できている。本校受験者の平均点が大学入学共通テストで全国平均点を上回った科目はなかった。</p> <p>② Point Up Seminar(土曜日補習)は、9月から2月までの期間、1・2年次希望者を対象に9回実施した。(コロナウイルスによる休校期間があったため実施回数が減少した。)生徒の満足度79.3%に対し教員の満足度71.2%であった。</p> <p>③ 長期休業中における補習の出席率は、 夏季 1年次：97.9% (98.9%) 2年次：96.1% (97.9%) 冬季 1年次：94.7% (97.3%) 2年次：93.5% (94.5%) 1・2年次の生徒の結果を平均して満足度は平均76.2 (72.9%)、教員の満足度93.4% (90.9%)と差が大きい。 ()内は昨年度</p> <p>④ コロナウイルス感染拡大防止のため実施できなかった。</p>	<p>3年次の早朝補習は希望者対象で、実施回数も多く、習熟別・分野別にクラス分けしているため進路決定後の学力・意欲の向上に結びつけることができると考えられる。本年度は最後まで、多くの生徒が参加することができた。大学入学共通テストの校内平均点が全国平均点に届く科目はなかった。</p> <p>1・2年次のPoint Up Seminar(土曜補習)は、募集前の内容提示に効果があったと考えられ、参加者の満足度は高い。しかし教員の満足度がやや低いのは負担が大きいためと思われる。実施方法の再考が必要である。</p> <p>長期休業中の補習は普段の授業内容を補足・充実させるもので出席率も高く、教員の満足度も高いが生徒の満足度が低い。生徒の意欲をいかに高めるかが課題である。</p>	<p>○ 補習内容を生徒にとって魅力のあるものになるように検討していく必要がある。平時の授業展開も考慮に入れ、習熟度別の授業展開や模試等の問題別の講義等の開設を検討し、受動的な受講ではなく、主体的な受講となるよう考慮する。</p> <p>○ 実施方法を改善して、教員自らもより積極的に関わることができ、Point Up Seminarの質の向上につながるよう工夫する必要がある。</p> <p>○ 補習内容を生徒にとって魅力のあるものになるように検討していく必要がある。平時の授業展開も考慮に入れ、習熟度別の授業展開や模試等の問題別の講義等の開設を検討し、受動的な受講ではなく、主体的な受講となるよう考えたい。</p>
<p>7) 主体的な学習活動を促進して、高い志を持ち、一人ひとりが自らの在り方・生き方を考える生徒を育成する。(主体的に学習に取り組む態度)</p>	<p>7) ① 講演会などにおいて、システム手帳を活用させる。</p> <p>② オープンキャンパスの積極的な参加を促進する。WEBオープンキャンパスの利用を促す。(新型コロナウイルス感染症対策をさせる。)</p>	<p>7) ① 富西システム手帳を用いて学習時間や生活時間の管理を行うことが学力の向上に役立っていると考えた生徒は 1年次：54.8% (45.8%) 2年次：34% (43.9%) 3年次：48.8% (57.7%) 教員の肯定的意見が84.7% (89.1%)であるのに比べて、生徒平均では45.6% (49.2%)となっている。()は昨年度。 ポートフォリオ作成のため、システム手帳に集会や講演の記録をする指導を行った。</p> <p>② 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で現地へのオープンキャンパス参加は5%であったが、オープンキャンパスの周知を徹底した結果、多数の者がWEBオープンキャンパスに参加した。</p>	<p>富西システム手帳の記録等をもっと継続的にする仕組み作りが必要である。システム手帳の活用について、教員と生徒との満足度が大きく離れていることに課題がみられる。</p> <p>今年度のオープンキャンパス参加については、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響を受けつつも、WEBオープンキャンパスに参加する者が多数であり、生徒の進路意識の高さを見ることができた。</p>	<p>○ システム手帳の活用が十分とはいえない。集会やホームルームでの継続した指導だけでなく、学校行事の中に記入週間を設け、記録する習慣づけが必要である。特に3年次の受験期に志望理由・自己アピールの作成等の活用することを意識づける。 また、入試改革により、生徒個人のポートフォリオ作成の必要性や、調査書への記載内容の増加から、生徒個人の活動を記録する重要性があるだけに、ただ記録するだけでなく、活動へのアプローチの仕方、活動後の学び、今後への展望などを書き残す指導をしていく。</p>

<p>8) 各教科等における言語活動を充実させる。(思考力・判断力・表現力)</p>	<p>③ 徳島県が主催するハイレベルセミナー、阿南市が主催する阪大連携事業、牟岐町で行われるサマースクール、京大連携事業等に参加させる。(新型コロナウイルス感染症対策をさせる。)</p> <p>④ Innovation.Lab.室(進路室隣)を面接等に利用し有効に活用する。</p>	<p>③ 徳島県や県内外の大学、大学と地方自治体との連携事業や講座などを案内した。生徒が興味関心を持つ分野や進路につながる内容の行事等があれば教員から参加を勧めるなどして、積極的に行動する姿勢が多数見られた。今年度はZoomを利用したものが多数あった。</p> <p>④ 校内での認知度も上がり、日々多岐に渡って有効に活用されている。</p>	<p>大学や地方自治体主催の講座等、校外の学習の機会を積極的に活用する生徒たちが増えてきている。</p>	<p>○ 来年度も状況によってはWEBオープンキャンパスへの参加を促すことになる可能性が高い。臨機応変に対応する必要がある。</p> <p>○ こまめな案内や参加指導をすることで進路実現に向けての意欲をさらに向上させたい。</p> <p>○ 共通テスト後に実施していた小論文模試を2学期末テスト後に実施し、1月中旬までに小論文模試の結果がわかるようにし、その結果を活かし指導をやりやすくする。</p> <p>○ 推薦入試や一般入試の面接やグループディスカッションの指導に素早く取りかかるためにシステムの変更をする。</p> <p>○ どのような入試に必要なのかを説明し、生徒一人ひとりに必要であることを認識させる。</p>
<p>8) ① 各年次で積極的に小論文模試を受験させる。</p> <p>② グループディスカッションや面接指導・小論文に対する入試対策を実施する。</p> <p>③ 仮志望理由書を2年次に書かせ、自己分析から自分の進路について考え表現させる。</p>	<p>8) ① 1・2年次は年1回、3年次では3回の小論文模試を予定通り実施した。</p> <p>② 推薦入試や一般入試の面接やグループディスカッションの指導は担当者を決定して計画的に行った。</p> <p>③ 2学期後半より自己分析に取り組みせ、その内容も踏まえ、現時点での志望理由書を書かせた。進路意識の向上につながることができた。</p>	<p>8) ① 1・2年次は年1回、3年次では3回の小論文模試を予定通り実施した。</p> <p>② 推薦入試や一般入試の面接やグループディスカッションの指導は担当者を決定して計画的に行った。</p> <p>③ 2学期後半より自己分析に取り組みせ、その内容も踏まえ、現時点での志望理由書を書かせた。進路意識の向上につながることができた。</p>	<p>3年次の小論文模試は、実施していた時期を見直し、7月末と12月の期末考査後に変更した。結果の活用が図られている。</p> <p>多くの教職員の方々に協力していただいた。来年度も多くの先生方に関わっていただきたい。</p> <p>3年次の準備として必要な取組であると考えていることができる。</p>	<p>○ 来年度も状況によってはWEBオープンキャンパスへの参加を促すことになる可能性が高い。臨機応変に対応する必要がある。</p> <p>○ こまめな案内や参加指導をすることで進路実現に向けての意欲をさらに向上させたい。</p> <p>○ 共通テスト後に実施していた小論文模試を2学期末テスト後に実施し、1月中旬までに小論文模試の結果がわかるようにし、その結果を活かし指導をやりやすくする。</p> <p>○ 推薦入試や一般入試の面接やグループディスカッションの指導に素早く取りかかるためにシステムの変更をする。</p> <p>○ どのような入試に必要なのかを説明し、生徒一人ひとりに必要であることを認識させる。</p>
<p>活動計画</p> <p>1) ① 令和4年度より施行される新教育課程作成にあたり、教育課程検討委員会を4月と7月に2回以上実施する。</p> <p>② 新教育課程編成についての外部研修等を積極的に受講し、全国的な動向の収集や分析を行い、本校の特性を活かしたカリキュラムを編成する。</p> <p>2) ① 相互に授業参観を行う。期間は6月と11月のそれぞれ1ヶ月間とし、2回ずつ参観を行う。優れた部分は授業者に伝えるとともに、参観者が共有し、改善すべき部分は授業者に助言することにより教員一人ひとりの授業力向上を図る。年1回は担当外の教科の授業参観を行う。</p> <p>② 10月に授業評価を実施する。授業評価の結果を各自が分析するとともに、教科会でも分析し、各自が授業改善に努め、教科会全体でも改善を図る。</p> <p>3) ① 1年次は年2回・2年次は年1回スタディサポートを実施し、結果を見ながら検討会を行う。また、1・2年次は年4回、3年次は年2回課題テストを実施し、基礎学力・応用力の習得を図る。</p> <p>② 日々の学習時間・学校行事や運動部・文化部の大会等の結果について「朝学」での記入日を設け、簡単な記録をさせる。</p> <p>4) ① 英語・数学の授業を習熟度別に実施する。</p> <p>② 教員が入試問題を分析し、生徒のレベルに応じた授業展開が実施できるようにするために、長期休業中等を利用して研究セミナー等に参加できる機会を設ける。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>1) ① 新教育課程作成と改善のための教育課程検討委員会を5月と7月の2回実施した。</p> <p>② 鳴門教育大学教授の前田洋一先生を講師とした研修会や校内研修を行い、新教育課程と評価についての理解を深める機会をつくった。</p> <p>2) ① 二回の参観授業月間を予定通り実施した。特に11月には、これまでの授業参観月間のあり方を見直し、授業参観シートの改訂・参観方法の工夫を行った。教科会や授業研究会また参観授業後に、個別に優れた点を授業者に伝えたり、シートに記入し授業者に渡すことで、教員がよりよい授業のあり方を共有することができるようにした。</p> <p>② 教員が生徒の授業評価の結果を分析するとともに、教科会等で分析・検討を行い、確かな学力の育成につながる授業展開ができる機会をつくった。臨時休校中や分散登校中は、教員がオンライン授業に取り組みやすいように、活用の仕方や配信方法の検討を行い、生徒も教員も活用しやすいオンライン授業を行った。</p> <p>3) ① 1年次は年2回・2年次は年1回スタディサポートを実施した。また、1・2年次は年4回、3年次は年2回課題テストを実施し、基礎学力・応用力の習得を図った。</p> <p>② 計画的な記入日は設けなかったが、講演会等があれば、システム手帳を持って行き利用するよう呼びかけた。</p> <p>4) ① 英語・数学・国語では、生徒の進路や習熟度に応じた授業を実施した。</p> <p>② 長期休業中を利用して、専門教科の研究セミナーや入試問題研究会、授業研修会等に参加できるよう、教員に機会があるごとに周知し、参加者を取りまとめた。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>1) ① 新教育課程作成と改善のための教育課程検討委員会を5月と7月の2回実施した。</p> <p>② 鳴門教育大学教授の前田洋一先生を講師とした研修会や校内研修を行い、新教育課程と評価についての理解を深める機会をつくった。</p> <p>2) ① 二回の参観授業月間を予定通り実施した。特に11月には、これまでの授業参観月間のあり方を見直し、授業参観シートの改訂・参観方法の工夫を行った。教科会や授業研究会また参観授業後に、個別に優れた点を授業者に伝えたり、シートに記入し授業者に渡すことで、教員がよりよい授業のあり方を共有することができるようにした。</p> <p>② 教員が生徒の授業評価の結果を分析するとともに、教科会等で分析・検討を行い、確かな学力の育成につながる授業展開ができる機会をつくった。臨時休校中や分散登校中は、教員がオンライン授業に取り組みやすいように、活用の仕方や配信方法の検討を行い、生徒も教員も活用しやすいオンライン授業を行った。</p> <p>3) ① 1年次は年2回・2年次は年1回スタディサポートを実施した。また、1・2年次は年4回、3年次は年2回課題テストを実施し、基礎学力・応用力の習得を図った。</p> <p>② 計画的な記入日は設けなかったが、講演会等があれば、システム手帳を持って行き利用するよう呼びかけた。</p> <p>4) ① 英語・数学・国語では、生徒の進路や習熟度に応じた授業を実施した。</p> <p>② 長期休業中を利用して、専門教科の研究セミナーや入試問題研究会、授業研修会等に参加できるよう、教員に機会があるごとに周知し、参加者を取りまとめた。</p>	<p>3年次の小論文模試は、実施していた時期を見直し、7月末と12月の期末考査後に変更した。結果の活用が図られている。</p> <p>多くの教職員の方々に協力していただいた。来年度も多くの先生方に関わっていただきたい。</p> <p>3年次の準備として必要な取組であると考えていることができる。</p>	<p>○ 来年度も状況によってはWEBオープンキャンパスへの参加を促すことになる可能性が高い。臨機応変に対応する必要がある。</p> <p>○ こまめな案内や参加指導をすることで進路実現に向けての意欲をさらに向上させたい。</p> <p>○ 共通テスト後に実施していた小論文模試を2学期末テスト後に実施し、1月中旬までに小論文模試の結果がわかるようにし、その結果を活かし指導をやりやすくする。</p> <p>○ 推薦入試や一般入試の面接やグループディスカッションの指導に素早く取りかかるためにシステムの変更をする。</p> <p>○ どのような入試に必要なのかを説明し、生徒一人ひとりに必要であることを認識させる。</p>

		<p>③ 駿台全国模試（ハイレベル）を積極的に受験させるため、計画的に周知する。</p>	<p>③ 応用クラスと理数科は基本的には受験するよう促した。</p>				
	5)	各教科と連携して小テストや課題学習等の実施計画を立て、生徒に周知する。	5)	「朝学」の中で計画を立て、英語、数学、国語の小テストを実施した。肯定的意見が、生徒77.9%（78%）、保護者90.6%（87.7%）、教員80%（80%）と満足度は高い。「朝学」が基礎学力の補強と学習習慣の定着につながっていると考える。			
	6)	<p>① ・早朝補習は希望制で英数国で2クールに分けて実施する。 ・8限目補習は理科、地歴・公民からの選択で火水木の放課後に実施する。 ・国公立大学の2次対策補習・私立大学一般入試対策補習では志望校合格を目指す。</p> <p>② 土曜日補習として、年間を通してテーマを絞った内容を提示して希望者を募集する。英数国から希望する教科を選択させて実施する。</p> <p>③ 夏冬の長期休業中に1・2年次は英数国の補習を、3年次には希望者を対象に、進学先に応じた入試対策補習を計画する。</p> <p>④ 外部講師を招聘して特別授業を実施する。</p>	6)	<p>① 早朝補習は、英数国から選択が可能とした。年間30分×50回を希望者対象に実施した。8限目補習は、1・2学期の火水木の放課後に希望者を対象に理社の科目に分かれ42日実施した。国公立大学の2次・私大対策補習は大学入学共通テスト後20日間補習クラスを設置したり・個別対応で進路希望に応じた補習を実施したりした。</p> <p>② 「Point Up Seminar」（土曜日補習）を実施している。参加者数は129（119）名。出席率は、1年次英語61.0%（77.2%）、数学60.0%（79.4%）、国語61.8%（71.9%）、2年次英語71.4%（73.8%）、数学79.8%（80.7%）、国語69.8%（76.1%）であった。「Point Up Seminar」（土曜日補習）の参加者を募集する際に補習の目的と内容について明示して案内した。（ ）内は昨年度</p> <p>③ 1・2年次の長期休業中補習については、英数国の3教科で夏季8日間、冬季4日間実施した。3年次の補習については、早朝補習、8限目補習、2次私大対策補習等を生徒の進学先に応じて実施した。</p> <p>④ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施できなかった。</p>			
	7)	<p>① 年次集会のメモや日々の生活・学習記録にシステム手帳を活用させる。</p> <p>② 夏季休業中のオープンキャンパスや体験入学への参加を促す情報を提供する。自分から進んで活動することを促し、自らの進路や将来をしっかり考えさせる。</p> <p>③ 徳島県主催のハイレベルセミナーや阿南市主催の阪大連携事業、サマースクール、京大連携事業などの日程を周知し、参加を呼びかける。</p> <p>④ Innovation.Lab.室（進路室隣）を進路・情報課に関わる活動に限らず、部活動や各小規模な説明会等に活用してもらえるように学校全体に働きかける。</p>	7)	<p>① 年次集会や講演会等のメモや日々の学習の記録にシステム手帳の活用を促した。</p> <p>② 夏季休業中のオープンキャンパス・体験入学に関する情報を随時提供し、タイムリーな情報が行き渡るように掲示物等に配慮した。集会では進路を考える上で、情報を入手することと自分から進んで行動することの重要性を伝えた。</p> <p>③ 県主催のネクストリーダー育成プログラムに2年次生3名が通年で参加、次年度に向けて1年次生も2名が登録し参加を開始した。大正大学地域創生学部生との「地域創生に関するワークショップ」に23名が参加した。</p> <p>④ 生徒との面談、少人数補習、大学生との交流会、集団討論や個別面接などの受験指導など日々休みなく有効に活用できている。</p>			
	8)	<p>① 1・2年次は年1回、3年次では3回小論文模試を計画し、正確な読解と小論文の書き方について指導する。</p> <p>② 学校推薦型選抜や一般選抜でディスカッションや面接を必要とする生徒を把握し、計画的に指導が行えるように進路・情報課でとりまとめる。</p> <p>③ 志望理由書添削キットを利用し、自己分析から自分の適性等を考え、文章表現させる。</p>	8)	<p>① 1・2年次はホームルームの授業を活用し、3年次は希望者を対象に小論文模試を3回実施し、将来の進路実現に備える力を付ける機会をつくった。</p> <p>② 推薦入試や一般入試の面接やグループディスカッションの指導は、生徒本人から申し出をさせ、全年次の教職員に協力をお願いして担当者を決め実施した。</p> <p>③ 本年度は、ホームルーム等で大学調べ、自己分析を行うための指導期間を経て、志望理由書添削キットを活用し記入を進めた。</p>			

◎ 2 生活指導の充実を図る (生徒指導課, 教育相談課)

自己評価				学校関係者 評価	次年度への課題と 今後の改善方策		
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価				
生活指導の充実を図る。	(全校レベル) I) 生徒指導の充実 II) 健康教育の充実 III) 教育相談の充実 (分掌レベル) 1) 基本的な生活習慣の育成に努める。 2) 規範意識や交通安全に対する意識を高め、社会人として通用するモラル・マナーを身につけさせる。 3) 生徒一人ひとりを大切にしたい指導を通して、豊かな情操や道徳心を育み、自尊感情を育てる。 4) いじめのない環境づくりに取り組むとともに、安心安全な学校の実現を図る。 5) 教育相談を組織的に進めるための校内体制を整備し、教育相談に対する教員の意識を高める。 6) 特別な支援が必要な生徒に対して、スクールカウンセラーの協力を得て、特別支援教育コーディネーターを中心とする学校組織全体としての対応を図る。	評価指標 1) ① 常時指導を重視し全校集会や年次集会時に、頭髪・服装検査を実施するとともに、基本的な生活習慣の確立を図る。 ② 遅刻者を前年度より5%以上減少させる。 ③ 朝学習遅刻指導を強化する。	評価指標の達成度 1) ① 実施のできた年次集会では頭髪・服装検査を行い、基本的な生活習慣の定着を啓発した。 ② 全年次合計で14%減少した。 ③ 毎朝、朝学習遅刻指導を実施し、巡回指導を行った。	評価 A	(総合評価) B (所見) 新型コロナウイルス感染症予防のため、実施できた年次集会は減少したが、遅刻指導の徹底により、大幅に遅刻者を減らすことができた。 自転車による交通事故が依然として多い傾向にある。安全で安心できる学校生活並びに登下校ができるよう交通マナーやルールの遵守について指導をしていきたい。事故や問題行動に対しては教職員の協力体制により、管理職や関係教員・関係機関と連携を図り、迅速に対応できた。さらに積極的な生徒指導に心がける。	高校においてもいじめが発生することがないようにしっかり取り組んでほしい。 スクールカウンセラーの活用がしっかりできているのは評価できる。 女子の制服にズボンが導入されるのはよいことである。	
		2) ① 携帯電話安全教室・薬物乱用防止教室を開催する。 ② 交通マナーアップ講話の実施と交通事故防止に努め重大交通事故ゼロを目指す。(年間交通事故件数10件以内)	2) ① 携帯電話安全教室、薬物乱用防止教室を1年次を対象に実施した。 ② 重大事故は発生しなかったが、主に自転車接触等の事故は13件発生した。(昨年度12件)から微増した。	B			ツイッター等SNSの情報機器使用マナーについての指導を徹底する。
		3) ① 面接週間を年間4回、特別面接週間を年間2回(6・10月)実施する。三者面談を年間1回実施する。 ② 道徳教育用教材の活用を推進する。	3) ① 予定通り個人面接を実施した。(特別面接は対象者なし)生徒理解や積極的な生徒指導・いじめの実態把握や防止に繋がった。 ② 道徳教材の活用については、改善の余地があった。	B			関係機関と連携し交通安全教育を推進し交通事故の減少に努める。通学指導・駐輪指導を継続的に実施する。
		4) ① 常時指導を重視し、年次集会や全校集会で生徒指導課・教育相談課・人権教育課等で連携し、いじめ防止指導を行う。 ② 学校いじめ防止基本方針に則りすべての教職員が連携し、「報告・連絡・相談」を図る。 ③ 年間3回学校生活アンケート(7・11・3月)を行い、生徒の実態を把握する。 ④ 年間4回の面接、2回の特別面接においていじめ防止の意識の高揚を図る。	4) ① 集会での生徒への啓発、防止指導を行った。他の課等との連携を徐々に深めることができた。 ② 各年次や担任と連携を図り、取り組むことができた。 ③ アンケートから生徒の実態を把握できた。 ④ 4回の担任面接を通じて実態を確認し、いじめ防止の意識を高めることができた。特別面接は必要とする事案がなく、実施しなかった。	B			スクールカウンセラーの常駐が望ましい。
		5) ① 相談室を必要に応じて開放する。 ② 教育相談研修会を年間4回実施する。	5) ① 使用できる準備はできていたが、別室を継続使用する生徒はいなかった。 ② 1学期1回、2学期2回、3学期1回の計4回実施した。	B			
		6) スクールカウンセラーによるカウンセリングについて、教員・生徒・保護者に適切に連絡し、効果的に活用することで、生徒理解や支援につなげる。	6) 組織的かつ計画的な実施により、カウンセリングを効果的に活用し、生徒理解や支援につなげることができた。	A			

活動計画	活動計画の実施状況
1) ① 頭髪・服装検査（毎月）を実施する。 ② 毎週末、遅刻指導を実施する。 ③ 朝学習遅刻指導を毎日実施する。	1) ① 新型コロナウイルス感染症予防のため、毎月の全校集会は実施できなかったが、放送による全校集会や年次集会時に頭髪・服装の指導を繰り返し行った。 ② 毎週末、遅刻指導を個別に実施した。 ③ 毎日、朝学習遅刻指導を実施した。
2) ① 携帯電話安全教室・薬物乱用防止教室を開催する。 ② 全校生徒および教職員を対象に交通マナーアップ講話を実施する。 ③ 交通マナーアップ活動（生徒会・部活動で校門前のあいさつ運動・駐輪場の整頓・施錠の徹底）を実施する。 ④ 自転車・原付自転車の整備点検し整備不良車は再点検を実施する。（年2回） ⑤ 毎月、学校安全の日に教職員による街頭通学指導を実施し、月～木に富西前交差点でも通学指導を実施する。 ⑥ 原付免許証取得者を対象に阿南自動車学校で実技講習会を実施する。	2) ① 1年次を対象に携帯電話安全教室・薬物乱用防止教室を実施した。 ② 4月の交通マナーアップ講話は実施できなかったため、年次集会で啓発に努めた。 ③ 生徒会・全部活動が輪番で交通マナーアップ活動（あいさつ運動・駐輪場での整頓・施錠の呼びかけ）を実施した。 ④ 5・9月に点検週間を設け自転車・原付の整備点検を実施した。 ⑤ 毎月の学校安全の日には街頭通学指導（8:10～8:30）を実施し、月～木曜日には富岡西高校前交差点で通学指導（8:10～8:30）を実施した。 ⑥ 7月に阿南自動車学校で原付免許取得者実技講習会を実施した。
3) ① 面接週間を4回、特別面接週間（6・10月）2回、三者面談を1回実施する。 ② 年次会で情報交換を行う。（随時）	3) ① 5・7・9・1月に担任による面接週間を実施した。夏期休業中に三者面談を実施した。 ② 各年次会で情報交換を実施した。
4) ① 年次集会や全校集会を行う。教育相談課、人権教育課等と連携を図る。 ② すべての教職員が「報告・連絡・相談」の意識を強く持ち連携を図る。 ③ 年間3回学校生活アンケート（7・11・3月）を行う。 ④ 年間4回の面接、2回の特別面接を行う。	4) ① 必要に応じ教育相談課や人権教育課と連携した。 ② 担任、年次主任及び管理職と連携し、委員会や会議の中で連携し指導を決定した。 ③ いじめについて年間3回のアンケートを実施した。 ④ 年間4回の面接の中でいじめについての聞き取りや指導を取り入れた。
5) ① 相談室を積極的に活用し、いつでも相談室を活用して相談にのる態勢であることを知らせる。 ② 生徒の共通理解を図るために、年間4回の教育相談研修会を実施する。	5) ① 相談室ではスクールカウンセラーによって13名の生徒、2名の保護者との面談が実施された。 ② 年間4回の研修会の他に、個別の相談会を実施した。
6) スクールカウンセラーと協力し、年108時間のカウンセリングの時間を適切に教員や生徒に連絡し、計画的に実施する。	6) 行事予定表への記載や口頭での案内のほか、本校のホームページを通じて周知し、計画通りに実施した。

○ スクールカウンセラーの常駐が望ましい。予算的に困難であればせめて加配時間数を増やすことが望ましい。

◎3 豊かな人間性と社会性の涵養を図る (特別活動課, 人権教育課, 総務・図書課, 国際・企画課, SSH課)

		自己評価			学校関係者	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		評価	
		評価指標	評価指標の達成度	評価	総合評価	
豊かな人間性と社会性の涵養を図る。	(全校レベル) I) 特別活動の充実 II) 人権教育の充実 III) 読書活動の充実 IV) 国際理解教育の充実 V) 主権者教育・消費者教育の推進				(評定) B	
	(分掌レベル) 1) 部活動, 生徒会活動等を活性化し連帯感を持たせ, 主体性や協働の精神, 愛校心を育てる。(思考力・判断力・表現力)	1) ① 部活動主将・部長会議を年間2回実施する。(必要に応じて適宜実施する) ② 各種委員会を年間2回実施する。 ③ 年間を通し挨拶運動を実施する。	1) ① 部活動における感染防止対策などを話し合う機会を設け, 実施できた。 ② 密を防ぐため参加人数を減らし実施した。 ③ 各部とも積極的に取り組み, また生徒会役員も月2回運動に取り組んだ。	B	(所見) 感染症が拡大しその防止対策で活動が制限される中, 部活動に対する満足度は生徒, 保護者とも85%を超える肯定的評価を得ており, その運営には各顧問の尽力がうかがえる。学校祭を含めた学校行事が感染症の影響を受け, 縮小, 中止を余儀なくされた影響か, アンケートでの満足度は昨年を若干下回る85%程度の結果となった。	生徒が学校で学んでいることと地域の取組がかみ合うように, 今後ボランティア活動の機会を作ってほしい。フードロスやSDG'sの取組が地域の活動と連動するように工夫してほしい。
	2) ホームルーム活動を充実させ, 豊かな人間関係づくりを図る。(主体的に学習に取り組む態度)	2) クラス内の課題を見だし, 解決するために話し合い, 合意形成できるようなホームルーム活動を行う。	2) 生徒総会に向け各クラスで学校内の改善について話し合う機会を設けた。	A		ライブラリーニュースを作っているのは, とても評価できる。しっかり活用できるようにもっと積極的に働きかけてほしい。
	3) 学校行事や部活動等を通して, 調和のとれた人間性の育成を図る。(主体的に学習に取り組む態度)	3) ① 学校祭へ来校する一般者数を600人以上とする。 ② 学校祭をはじめとする学校行事の満足度を80%以上とする。 ③ 部活動への入部率を90%以上とする。	3) ① 開催直前に感染が拡大し実施できなかった。 ② 新型コロナウイルス感染症拡大を防止するため, 状況に応じた行事運営を試み, 生徒・保護者とも80%以上の満足を得ることができた。 ③ 新型コロナウイルス感染症拡大という状況の中, 生徒会が部活動紹介を工夫して行い, 新入生の90%を超える生徒の加入を実現することができた。	B		読書をする生徒が増えているのはとてもよいことである。読書感想文コンクールの活用などを通して, 継続させてほしい。
	4) ボランティア活動等を通して, 社会参加の意識を高め, 奉仕の心を育てる。(思考力・判断力・表現力)	4) ボランティア活動について全校生徒に周知し, 積極的に参加を促していく。	4) 感染拡大により中止されたこともあったが, 積極的に告知し参加を促すことができた。	B		成人年齢が18歳となり, 選挙権を持つようになるので, 高校においてもその指導に取り組んでほしい。
	5) 人権に対する感性を磨き, 自他の生命の尊さを認識し, 多様性を認め, 相手の立場に立って行動することができる人づくりを推進する。(思考力・判断力・表現力)	5) ① 人権学習ホームルーム活動を年間6回実施する。 ② 教職員の人権学習ホームルーム活動事前研修を年間4回実施する。(5テーマ) ③ 「富西人権の日」を月1回実施する。	5) ① 6回のホームルーム活動を実施し, 人権啓発映画会も実施できた。生徒の87.5%が, 学校は人権学習ホームルーム活動を通じて人権意識の高揚に努めている, と回答しており, 人権学習の充実が図られていると考えられる。 ② 4回の事前研修会を実施した。人権学習ホームルーム活動の充実につながった。 ③ 計画通り実施した。多様な行事を盛り込むことで, 人権意識の高揚に努めた。	B	人権学習ホームルーム活動や「じんけん富西」発行などの本校人権教育について, 約90%の生徒や保護者が肯定的に評価していることから, 一定の効果をあげていると考えられる。教員の肯定的な回答も100%であり, 一定の成果があった。	○ 学校生活のあらゆる機会を捉えて, 自他の人権が尊重される社会の実現に寄与できる生徒の育成を目指して, 生徒の心に響く授業・行事の実施について継続して取り組んでいきたい。そのために, 各種の研修会・講演会等への教職員の積極的な参加を呼びかけたり, 参加報告の場を適切に設けることにより, 教職員の人権教育に関する意識の高揚に努めたい。
ホームルーム活動を充実させ, 豊かな人間関係づくりを図る。	6) 情報モラル教育を体系的に推進し, 人権が尊重された環境づくりに努める。	6) インターネットと人権について, 人権学習ホームルーム活動を実施する。	6) 計画通り実施できた。	B		

	7) 人権問題に積極的に取り組む態度の育成を図る。(主体的に学習に取り組む態度)	7) ① 人権に関する作文や作品製作を通して、人権が尊重された環境について考える。 ② 人権委員会や社会問題研究部による啓発活動を実施する。	7) ① 作品づくりを通して、様々な人権問題を自己の問題として考える契機とすることができた。人権標語ポスターでは県の理事長賞を受賞した。 ② 富西祭は中止となったが、啓発紙「じんけん富西」の発行や、オンライン形式での校外活動への参加を行うことができた。	A		
	8) 読書の意義や重要性について啓発を行い、自主的な読書の習慣化を図る。(主体的に学習に取り組む態度)	8) ① 「ライブラリーニュース」の発行については、図書委員の主体的な取組により、定期的に年間8回以上発行する。 ② 年2回読書会を開催する。	8) ① 「ライブラリーニュース」を年8回発行した。 ② 年2回読書会を実施した。	B	活動は計画通り実施できたが「ライブラリーニュース」の存在が生徒の中で十分行き渡っていないようである。	○ 「ライブラリーニュース」を教室掲示する際に図書委員が内容を紹介するなど、生徒の主体的な活動を促したい。 ○ 読書の習慣化に結びつくような広報や行事を考えていきたい。
	9) 読書を通して、人生をより豊かに生きる力を育む。(主体的に学習に取り組む態度)	9) HR文庫や学校図書館を積極的に利用することで、読書を身近なものとし、読書の習慣化を図る。年間学校図書館利用者数を6000名以上とする。	9) 新型コロナウイルス感染症予防のためHR文庫は実施しなかったが、1月末現在で図書館利用者は6000名を超えており、図書館利用や読書の習慣化はある程度達成できた。	B		
グローバル社会を生き抜くための異文化理解力を養う。	10) グローバル社会を生き抜くための異文化理解力を養う。(思考力・判断力・表現力)	10) 交流するために必要な実践的な言語活動を行い、平易な内容を簡潔に発信できることを目指す。(1・2年次全クラス1講座以上)	10) 二回の中国語講座を通して学んだことを、ペンパル活動など実践的な学びへとつなげるにより、関心を高めることができた。	B	中国語講座では1・2年次全員が年賀状を中国語で作成し、ポスターにまとめたものを台湾へ送った。オンライン交流では科学的題材や台湾と日本の地域社会への視点も盛り込むことができた。	○ 中国語講座については、授業形態や実施内容などより充実したものとなるよう改善していきたい。
コミュニケーション能力を伸ばし、国際社会の中で主体的に生きる力を育成する。	11) コミュニケーション能力を伸ばし、国際社会の中で主体的に生きる力を育成する。(主体的に学習に取り組む態度)	11) 海外の高校や大学と交流を継続し、知識を活用しながら自ら考え、主体的に取り組む態度を養う。	11) 台湾国立新化高級中學校とオンラインで交流会を5回行い、活動を通して自主性、多様性、協働性を養った。	B		○ 従来の台湾海外研修が実現できるようになった後も、オンライン交流を併用するなど、今後の新しい交流手段としての活用を考えたい。
政治や選挙への関心を高め、主権者として必要な教養を身につけ、自ら行動できる力を育む。	12) 政治や選挙への関心を高め、主権者として必要な教養を身につけ、自ら行動できる力を育む。(思考力・判断力・表現力)	12) ① 社会的課題の多様性・複雑性について実感を持って捉えることができるようにするとともに、立場や意見の異なる他者とのコミュニケーション力や協働力を育成する。 ② 学校行事やホームルーム活動を通して、実践力を養う。	12) ① 授業に加えて選挙をはじめ実際の社会的事象を通して、自分の問題として考えることができた。 ② 学校行事を通して、合意形成や協働がよりよい学校生活を育む基礎となることを学ぶことができた。	B		○ 社会の事象を「自分ごと」として捉え、考えられるような授業の工夫を行っていきたい。
	13) 消費者問題やエシカル消費への意識を高め、賢い消費を実践できる力を養う。(思考力・判断力・表現力)	13) 一人ひとりの消費行動は社会で生じている課題とつながっていることを理解し、消費者市民としての意識を高める。	13) 身近な消費者問題に気づき、エシカル消費について学ぶことで実践力をつけることができた。	B		○ 自分にできることは何かを考え、実践できるような機会を持てるようにしたい。
		活動計画 1) ① 部活動部長会議を(4月・10月)に実施する。また、必要に応じて開催する。 ② 各種専門委員会、ホームルームリーダー研修会を開催する。 ③ 年間をとし、生徒会や部活動生徒により校門前で挨拶運動を15分間実施する。雨天時は昇降口で行う。 2) クラス内の課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成できるようなホームルーム活動を年2回行う。 3) ① 学校祭を9月実施とし、一般公開する。新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては制限を設けて実施する。 ② 各行事終了後にアンケートを実施し検証する。	活動計画の実施状況 1) ① 4月と10月に実施し感染対策や活動方針など話し合うことができた。 ② 各2回実施できた。 ③ 各部の積極的な参加で75%以上の生徒が学校生活の活力になっていると感じている。 2) 生徒総会に向けてのホームルーム活動のほか、卒業生に贈る写真企画などクラスの結束を図る活動ができた。 3) ① 感染が拡大し実施ができなかった。 ② 新型コロナウイルス感染症を防止する制約の中、創意工夫をして行った。生徒の80%以上が満足していると回答した。			

		<p>③ 部活動紹介を実施し、4月と2月で入部率を調査・把握することで、入部を促進する。</p> <p>4) JRC部を中心とし、全校生徒にボランティア活動の募集を周知する。また、ホームルーム活動の時間を利用して清掃ボランティアを実施し、ゴミの回収から分別まで正確に行う。</p> <p>5) ① 人権学習ホームルーム活動を年間6回実施する。</p> <p>② 各年次で人権学習ホームルーム活動の事前研修会を行う。</p> <p>③ 「富西人権の日」の人権に関する行事を企画・運営する。</p> <p>6) 1年次に「インターネットと人権」という主題で、人権学習ホームルーム活動を実施する。</p> <p>7) ① 人権に関する感想文や作文を書かせたり、標語・ポスター・作詞作曲・書道などの作品製作に取り組んだりさせる。</p> <p>② 人権委員会で「じんけん富西」を作成し発行する。</p> <p>③ 人権委員会の富西祭での啓発、社会問題研究部の自主研修を支援する。</p> <p>8) ① 図書委員会で「ライブラリーニュース」を作成・発行し、教室掲示を行う。</p> <p>② 図書委員を中心に読書会の企画・運営をする。</p> <p>9) HR文庫の内容を充実させ、読書を身近なものとする。さらに図書委員がリーダーとなり読書を呼びかける。また、学校図書館においては、読書の魅力を発見できる展示の工夫に努めるとともに定期的にイベントを開催する。</p> <p>10) 中国語の授業を実施し、簡単な会話の中で言語や文化を理解し、興味・関心と敬意を持たせる。</p> <p>11) 海外の高校生との交流を継続する。主体的に取り組めるよう、交流の仕方を考えて教員の支援のもとに発信する機会をつくる。</p> <p>12) ① 通常の授業に加えて、補助教材を用いて主権者教育をテーマにした授業を1回以上行う。(2年次選択者)</p> <p>② 各学校行事やホームルーム活動での学習を通して、コミュニケーション力や協働力を高める。記載台と投票箱を用いて、模擬選挙を行う。</p> <p>13) エシカル消費を身近なものとして捉え、実践できる力を養うため、授業及びホームルーム活動等を通して、知識を活用し主体的に取り組む態度を養う。</p>	<p>③ 4月、2月の入部調査とも90%を超える入部率で、積極的に参加できている。</p> <p>4) JRC部の活動によるボランティア活動は多くの生徒が参加できたが、ホームルーム活動での清掃ボランティアは害虫などの影響により実施できなかった。</p> <p>5) ① 各年次とも年間6回の人権学習ホームルーム活動を実施することができた。</p> <p>② 年次ごとの事前研修会を年間5回実施することができた。さらに、人権学習ホームルーム活動の充実のために、自主的な勉強会を複数回持つことができた。</p> <p>③ 人権委員長からのメッセージ、正副担任からのメッセージ等の多彩な行事を実施することができた。</p> <p>6) 計画通り実施できた。</p> <p>7) ① 様々な人権問題に対して、深い理解と解決への意欲が感じられる作品が多くよせられた。人権標語ポスターでは県の理事長賞を受賞した。</p> <p>① 人権教育に関する行事・授業についての人権委員の意見や感想等を取り入れた「じんけん富西」を作成・発行することができた。</p> <p>② 富西祭および街頭啓発活動が中止となったが、オンライン形式での参加について、活動の支援を行うことができた。</p> <p>8) ① 図書委員会で推薦図書や行事案内を入れた「ライブラリーニュース」を作成し、教室に掲示した。</p> <p>② 図書委員会で本を選定し、ポスターを掲示して参加を呼びかけた。委員長を中心に読書会を行った。</p> <p>9) コロナ感染予防のためHR文庫は実施できなかった。一方、展示「図書委員会のオススメ」で紹介された本は貸出回数も増えており、図書委員が主体となって読書の魅力を呼びかけることができた。</p> <p>10) 中国語講座に加えて、希望者を募り中国語講師とのランチミーティングや放課後の箏曲演奏会を開くなど異文化交流の機会を増やした。台湾交流に対する興味関心を高めることができた。</p> <p>11) 台湾国立新化高級中學とオンライン交流会を5回実施した。ペンパル活動では、手紙に加えて品物の交換を行い、日本と台湾それぞれの文化を紹介する機会とした。</p> <p>12) ① 全ての単元において、主権者教育を意識した授業の実施に努めることができた。</p> <p>② 学校行事の内容変更や中止により、予定していた時数を実施することができなかった。また模擬選挙については、感染症対策により、実施を見送った。</p> <p>13) 出前授業を活用し、消費者としての意識の涵養に努めた。</p>			<p>○ 授業の構成を工夫し、生徒が社会事象との関連を考え、判断できる力を養えるようにしたい。</p> <p>○ 社会の一員としての自覚や責任感を養うため、オンラインでも実施できるような方法を考え、実践したい。</p> <p>○ 多様な観点から、消費者としての責任と義務を考え、エシカル消費を実践できる力をつけられるような授業を実践したい。</p>
--	--	---	--	--	--	--

◎ 4 生徒一人ひとりの能力や個性を伸ばし、進路志望の実現を図る (進路・情報課, 国際・企画課, SSH課)

		自己評価			学校関係者	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価	評価	
		評価指標	評価指標の達成度	評価	総合評価 (評定)	
生徒一人ひとりの能力や個性を伸ばし、進路志望の実現を図る。	(全校レベル) I) 進路指導の充実 II) キャリア教育の推進	1) ① 個人面談、各年次部会、三者面談等で各年次に必要な進路情報誌を提供する。3年次担任会を毎週木曜日に開催し、情報の共有を図る。 ② 進路情報誌『道』を発行し、HR活動で活用する。 ③ 生徒対象と保護者対象の二部に分けて各年次で進路講演会を実施する。 ④ 3年次の生徒の分析を目的とした進路対策委員会を年間3回以上実施する。	1) ① 1・2年次の保護者には高校のガイダンス本や入試の概要がわかる冊子を、3年次の保護者には入試や進路の詳しい情報冊子を配布した。また、ホームルームや教職員個人用に入試や進路に関する情報誌を適宜提供した。3年次の担任会を毎週木曜日に実施し、生徒の進路実現に向けての情報を共有することができた。 ② 9月に『道』を発行した。9月に『道』を使った進路ホームルーム活動の特設に実施した。進路ホームルーム活動の生徒の満足度は88.5% (87.7%)、教職員は95% (96.4%)と高い。()は昨年度 ③ 3年次の生徒へは、進学希望者と就職・公務員・一般専門学校進路希望者に分かれて各方面の専門講師を迎え、進路別ガイダンスを行った。保護者対象には年間1回の年次部会を開催し、担任団や進路・情報課から進路情報や入試日程、進路実現までの流れを話す機会を設けた。10月に1年次の生徒・保護者を対象にベネッセの島本直哉氏を、9月に2年次の生徒・保護者を対象に近畿大学入学センター高大連携課の屋木清孝氏を招いて進路講演会を実施した。進路講演会と進路ガイダンスに関して生徒は89.8% (87.7%)、保護者は90.2% (91.9%)と高い満足度を示した。()は昨年度 ④ 進路対策委員会は各回の目的に応じて年間3回開催した。	B	B (評定)	SSHの取組の一環として行っている生徒の課題研究は、やはり文章にしないと意味がない。今年度はそのような取組が為されているので評価できる。
	(分掌レベル) 1) 生徒の能力、適性に合った進路実現を図るため、きめ細かな進路指導を体系的に行う。					
	2) 確かな学力を育成し、第一希望の進路実現を図る。(主体的に学習に取り組む態度)					○ 全年次で『道』を使った進路ホームルーム活動の特設実施する以外に、年間を通して進路ホームルームを複数回とれるように、進路・情報課での計画と学校行事等との調整を行う。そして進路意識をより高める啓発活動を更に充実させたい。 ○ 希望進路への意識の向上と自己分析を目的として「志望理由書」を2年次3学期に作成させた。最終学年を迎えるにあたり、自分自身の進路をしっかりと考える機会にしていきたい。 ○ 進路講演会は、その年次で伝えたい内容を焦点化し、講師との事前協議を必ず行う。講演の目的を明確にして実施する。同じ講演者であっても内容の充実度と聞き手の満足度が高い講演者には引き続きいてほしい。 生徒の進路希望を実現するために細やかな進路指導が必要である。 ○ 学力対策講座を縮小し12月実施の校外模試(土曜日実施)を受験させることにより学力を向上させたいと考える。

<p>3) 計画的かつ体系的にキャリア教育を展開する。望ましい職業観、勤労観または、人生観を育成し、地域をイノベーションするグローバルな視点を養う。(主体的に学習に取り組む態度)</p>	<p>③ 3年次国公立大学の合格者数を70名以上とする。</p> <p>3) ① (1年次) SSH教育課程のもと、1年次はTN-Scopeの時間を利用し、課題研究メソッドに基づいて仮説を立て、解決策の構想を描くことができる。 (2年次) TN-Scopeの時間を利用し、研究テーマに沿って自主研究を実施し、年間2回発表会において、わかりやすく伝えることができる。 (3年次) TN-Scopeの時間を利用し、今まで取り組んだ研究成果を進路選択に生かし、様々な切り口から志望動機を考え表現できる。</p> <p>② 地元企業による講義を設け、仕事とは何か、どのようなことを大切にして仕事をするのがよいかを考えさせる。</p>	<p>③ 今年度の国公立大学の合格数は定員の29.4%(25.5%)であった。 ()内は昨年度。</p> <p>3) ① (1年次) 理数科 (Scope Science)、普通科 (Scope Agora) の取組も3年目となった。課題研究の土台となる基礎力を養った。 (2年次) 理数科 (SS) では中間発表会を、普通科 (SA) ではSA発表会をそれぞれ実施した。 (3年次) 理数科は課題研究発表会や課題研究論文集を作成、普通科はWeaving Future Noteを作成した。また、各自の進路実現へ向けて、志望理由書作成や小論文・面接練習などに取り組んだ。 満足度は、1年次72.1%、2年次76.5%、3年次75.5%であった。</p> <p>② トップリーダーセミナーを年2回、計16講座開講し、地元企業について学んだ。自分の興味関心と社会貢献とを結びつけて考えることにより、職業観等を考える良い機会となった。</p>	<p>B</p> <p>必要に応じてオンラインでの講義も取り入れながら、各年次における取組を実施することができた。</p> <p>地元の企業・事業主・大学等に協力いただき、対面での講義を実施することができた。</p>	<p>○ AIの進歩、Society5.0といわれる近未来社会、地域創生、仕事の変化等、急速に社会が変化しており、本校の目指すキャリア教育をSSH事業を活用しながら再構築しなければならない。県南地域での本校の果たすべき役割を考え、行動していきたい。</p>
	<p>活動計画</p> <p>1) ① 逆引き辞典・進学ガイドブック等良質な内容の進学情報誌等を選択し、生徒・保護者に提供する。</p> <p>② 『道』を7月7日に発行する。 『道』を使った特設ホームルーム活動では担任から進路設計の指導を行い、先輩の軌跡から学ばせる。</p> <p>③ 学部系統別進路ガイダンスを7月に実施する。(1・2年次) 就職・公務員・実技系専門学校対象とその他進学する生徒に分かれての進路別講演会を6月に実施する。(3年次)</p> <p>④ 進路対策委員会に必要な資料を作成する。</p> <p>2) ① 学力対策講座ではKバック(河合塾)を全3日間で実施し、自己採点処理と校内でマーク成績処理をするとともに、実施後には補習や解説のできる時間を設ける。並行して行う教養講座では、外部講師を招聘して社会で必要な知識を身につけることのできる講座を行ったり、パソコンの資格取得を目指したりする。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>1) ① 各年次の保護者には予備校(高松予備校、河合塾等)や各社(ベネッセ、マイナビ、リクルート、JSコーポレーション、旺文社、さんぼう等)の情報冊子を配布した。また、生徒個人やホームルーム、教員用に、逆引き辞典・蛍雪時代などの進路情報冊子を履修科目の選択決定や進路実現のための資料として適宜提供した。</p> <p>② コロナウイルスの影響で『道』は9月に発刊し、『道』を使った進路ホームルーム活動の特設して実施し、先輩の軌跡から進路実現に向けての意識を高めた。</p> <p>③ 1・2年次対象の進路ガイダンスはコロナウイルスの影響で県外の上級学校についてはzoomを利用し、県内の上級学校については本校で講義をする形で実施した。 6月22日には3年次の進学希望者に対して河合塾の井上将輝氏の講演を実施した。就職・公務員・一般専門学校進路希望者には各方面の専門講師を迎え、進路別ガイダンスを行った。</p> <p>④ 7月に進路志望先検討会、12月に進路志望先研究会、1月に大学入学共通テスト後の出願検討会として年間3回実施した。その他推薦に関する選考会などは複数回実施した。スタディサポートの結果や模擬試験の集計結果を用いて進路対策委員会に必要な資料を作成するとともに、大学入学共通テスト後の担任作成資料は担任の負担が少ないように内容を改善している。</p> <p>2) ① 学力対策講座ではKバック(河合塾)を3日間で実施した。教養講座では、外部講師を招聘して社会で必要な知識を身につけることのできる講座を開いたり、着こなしセミナーを開催したりするなど社会での即戦力となる知識技能の習得の時間とした。</p>		

		<p>② 全教員で3年次の進路指導にあたる体制を強力に推進し、3年次担当以外の教員にも進路情報等の提供を積極的に行う。</p>	<p>② 総合型選抜、学校推薦型選抜にはじまり一般選抜まで、教科指導・口頭試問・小論文・面接・討論等において全職員の先生方に指導の協力を得た。</p> <p>進路情報に関しては、回覧板を使って年次ごとに情報を共有することに努めた。</p>		
		<p>3) ① SSH事業の一環としてのTN-Scopeが3年目を迎え、地域密着型の課題研究を中核に据えたキャリア教育をさらに充実させる。</p> <p>SSH教育課程のTN-Scopeにおいて、課題解決に必要なスキルを身につけ、地域密着型課題研究に向け課題を考えさせる。</p> <p>(2年次) TN-Scopeのもと、研究テーマに沿って自主研究を実施し、年間2回発表会を実施する。</p> <p>(3年次) TN-Scopeの時間を利用し、今まで取り組んだ研究成果を進路選択に生かせるように、様々な切り口から志望動機を考え表現させる。</p>	<p>3) ① 昨年まで行ってきた、地元企業・大学との連携、地域の様々な活動への参加等をSSH事業のもとで充実させ、キャリア教育を進めた。今年度は、普通科・理数科の合同発表会も計画し、生徒の発表練習などの準備も進めていたが、新型コロナウイルス感染拡大のため実施はできなかった。</p> <p>(1年次) SSH事業として、NASAコンセンサスゲーム、高大連携事業、スペシャリストアカデミー、データサイエンス講義、NIE教育、トップリーダーセミナー、SDGsワークショップを実施した。</p> <p>(2年次) SSH事業として、高大連携事業、スペシャリストアカデミー、データサイエンス講義、SDGsワークショップ、トップリーダーセミナーを実施した。理数科は課題研究中間発表会を普通科はSA発表会を実施し、課題研究の成果を発表した。</p> <p>(3年次) SSH事業として、理数科は課題研究発表会や課題研究論文集を作成、普通科はWeaving Future Noteを作成した。また、クラスでは志望理由書や面接資料の作成、集団討論や面接の資料準備等を行った。</p>		
		<p>② 「キャリア」への意識を高める講演・講義を行う。</p>	<p>② トップリーダーセミナーを年2回、計16講座開講し、地元企業について学ぶ機会を設けた。</p>		

◎ 5 環境教育・防災教育を推進する (環境・防災課)

自己評価				学校関係者 評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		
環境教育・防災教育を推進する。	<p>(全校レベル)</p> <p>I) 環境教育の推進</p> <p>II) 防災教育の充実</p>	<p>評価指標</p>	<p>評価指標の達成度</p>	<p>評価</p>	<p>総合評価</p>
環境問題に強い関心を持ち、持続可能な社会の担い手A248:I255を育む。	<p>(分掌レベル)</p> <p>1) 環境問題に強い関心を持ち、持続可能な社会の担い手を育む。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>2) 校内外の環境美化活動を推進し、公共心や奉仕の精神の育成を図る。(思考力・判断力・表現力)</p> <p>3) 最新の災害状況を踏まえた学校防災計画を策定する。</p> <p>4) 防災クラブの活動を活性化し、防災リーダーの育成に努める。(主体的に学びに向かう態度)</p>	<p>1) 教室における不在時の消灯などによる節電や節水を徹底する。</p> <p>2) 清掃に真面目に取り組んでいると考える生徒が90%以上とする。</p> <p>3) 南海トラフ地震に対応した防災避難訓練を実施し、避難後の新型コロナ感染対策などの具体的な方策を理解させる。</p> <p>4) ① 年間10日以上、防災クラブの活動をおこなう。</p> <p>② 防災士の受講生徒を増加させる。</p>	<p>1) 節電・節水の取り組みができていると考えている生徒は、68%であった。</p> <p>2) ① 清掃に真面目に取り組んでいると考える生徒は79%であった。</p> <p>3) 2回実施しワークシート等で具体的な方策を理解させた。</p> <p>4) ① 負傷者の運搬の仕方や簡易トイレの組立等野外活動訓練を行った。コロナ禍の為、集合が難しく8月に1回分散して行った。</p> <p>② 1名が防災士になった。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p>
				<p>(所見)</p> <p>環境保全に対する意識の向上を目指してより一層徹底が必要である。</p> <p>教職員は93%が生徒は真面目に清掃に取り組んでいると考えているが、生徒の意識と少し乖離が見られる。</p> <p>今年度はコロナの影響により多くの活動が制限された中、積極的に活動しようとする生徒の意識の高さは感じられた。</p>	<p>今年度も生徒の評価の方が清掃活動において厳しいものになっている。生徒の意識の高さが分かる。とても評価できる。</p> <p>遠方から進学してくる生徒が安心して下宿ができる環境が大切だ。</p> <p>○ 地球温暖化等私たちを取り巻く環境問題について、委員だけでなく全校あげての意識改革が必要である。</p> <p>○ 南海トラフ地震や新型コロナ感染症対策など未体験のことにも対応できる実践力を身につけさせる。</p>

5) 南海トラフ地震の対応, 新型コロナウイルス感染症対策など, 教職員の危機管理能力の向上を図る。	5) 防災に関する研修を年3回以上実施する。	5) 防災避難訓練を2回実施し, 感染が増加してきたため1回はワークシートによる研修に変更した。	B
	活動計画	活動計画の実施状況	
	1) 環境委員が節電・節水を呼びかける。	1) 環境委員により, しっかり取り組むよう生徒へ周知したが, 徹底できていなかった。	
	2) 全教職員で清掃箇所を分担し, 校内の清掃活動を徹底する。	2) 全教職員の清掃指導を徹底した。	
	3) ① 津波に備えて校舎の3・4Fに避難する訓練を実施する。大津波の場合は, 高台(校舎の南の山)へ避難することを周知徹底する。 ② 南海トラフ地震臨時情報が発表された場合の学校からの発信システムを理解させる。	3) ① 3密回避のため, 地震想定避難訓練において, 津波を想定して3・4階に避難する訓練は, 口頭および紙面にて周知徹底した。 ② Jアラートにおける訓練を定期的に行った。	
	4) ① 防災クラブを中心に近隣の高齢者宅を訪問し, 転倒防止器具の設置や避難済みを知らせるカードを配布する。 ② 地域の保育園児の避難誘導を, 防災クラブ中心に高校生が支援できるようにする。 ③ 防災士育成講座の案内を適宜行い, 受講生への指導を行う。	4) ① 本年度は外部との接触を避けるため, 近隣を訪問することができなかった。 ② 本年度は外部との接触を避けるため, 2学期の避難訓練において, 近隣の保育所の園児達と合同の避難訓練を実施できなかった。 ③ 受講生への研修・指導を行った。	
	5) 南海トラフ地震や新型コロナウイルスに対応できる実践力につながる研修を実施する。	5) 防災訓練のたびに教職員に向けても研修を実施した。	

◎ 6 生徒・保護者・地域から信頼される開かれた学校づくりに努める (教務課, 総務・図書課, SSH課)

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価			
生徒・保護者・地域から信頼される開かれた学校づくりに努める。	(全校レベル) I) 積極的な広報活動の実施 II) 開かれた学校づくりの推進 III) 「働き方改革」・「学校改善」の推進 (分掌レベル) 1) 中学生体験入学, 学校公開, 地域説明会等を通して, 幅広く教育活動の公開に努める。	評価指標 1) ① 中学生体験入学は, 実施内容を改善し, アピール度の向上を図る。参加者は500名以上, 参加者の肯定的評価を90%以上とする。上記について新型コロナウイルス対応につきWEBで実施した場合, 動画のクオリティをあげ, より富岡西高校の魅力がアピールできるコンテンツを作成する。動画の視聴者は300名以上とし, 視聴者の肯定的評価を90%以上とする。 ② 学校公開の参加者は50名以上とする。WEBにおいても実施し, 視聴者を100名以上とする。 ③ 地域説明会は5カ所で行い, 合計の参加者は200名以上とする。 ④ 近隣中学校は年間2回以上, 遠方の中学校については年1回以上訪問を行う。	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B	B	
			評価	総合評価 (評定) B		
			1) ① 新型コロナウイルス感染症対策のため中止となったが, 「富岡西高校動画配信サイト」により「Web中学生体験入学」を実施し, 学校紹介や部活動, 体験授業について動画で配信を行った。中学3年生を中心に約200名が視聴した。 ② 上記と同様に, 「Web学校公開」により普段の授業の様子や部活動の練習風景を動画で配信し, 約80名が視聴した。 ③ 5カ所で行い, 合計の参加者は360名であった。富岡公民館は参加希望者が多く2日に分けて行った。 ④ 学校説明会に参加し各中学校年間2回以上訪問を行った。		<p>ホームページにアップするものは, 見た人がわかりやすいように注釈をつけるなどの工夫が必要である。</p> <p>今までやっていることでなくなったことはあるのか。増えていく一方になり, 教員の疲弊感が大きくならないようにしてほしい。</p> <p>教員の負担減のための, オンライン研修などは積極的に行うべきである。</p>	<p>○ 本校で実施する場合と, Webで実施する場合の両方を想定し計画を立てる。どちらになっても, 富岡西高校のよさが伝わるよう内容を充実させる。</p> <p>○ Webで実施する場合は, できるだけ普段の授業風景を配信することにより, 富岡西高校の実際の生徒の授業へ取り組み方や雰囲気を知ってもらおう。</p> <p>○ 説明の内容を最新のものにし, 特に進学実績や海外との交流についてアピールを行う。</p> <p>○ 遠方の中学校の生徒には, オンラインや動画を活用し説明を行う。</p>

	<p>2) ホームページの充実を図り、積極的に情報発信を行う。</p> <p>3) 学校評価と学校関係者評価を実施し、よりよい学校づくりに努める。</p> <p>4) P T A役員会、牛岐同窓会役員会等で積極的な意見交換を行うなど、地域社会との連携を図る。</p>	<p>⑤ 本校の取組、進路実績についての説明会を開き、各中学校から1名参加してもらおう。</p> <p>2) ① ホームページの更新を年間で150回以上行う。</p> <p>② 生徒が利用しやすい内容の掲載を考える。</p> <p>③ P T A・同窓会のページを充実させる。</p> <p>3) 教職員による学校評価推進委員会を適宜開催する。また、学校評議員を招いて学校関係者評価を実施し、学校改善に努める。</p> <p>4) P T A役員会を年4回実施する。各支部からの少なくとも1名以上の参加者をめざす。</p>	<p>⑤ 中学校教員を対象として説明会を実施し15校から参加いただいた。本校の教育活動や進路実績について説明を行った。</p> <p>2) ① ホームページの更新回数は、記事のアップ以外にもメニュー等の更新を含め、1年間で150回以上は更新することができた。</p> <p>② 生徒の活動の様子を学校生活や部活動、SSHの記事等に分かりやすくまとめた。</p> <p>③ P T A・同窓会のページは適宜更新できた。</p> <p>3) ① 学校評価推進委員会を開催した(2回)。また、3月16日には学校評議員を招き学校関係者評価を実施した。</p> <p>4) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、役員会は、参加を本部役員、各支部長に限定して開催した。4月に実施し、総会提出議案について審議した。次回は3月に開催する。</p>	B	<p>富西のホームページの更新をできるだけ積極的に行い、広報につながるように努力した。SSHのページでは、地域創生や台湾交流など活動の様子ができるだけ分かりやすく伝わるように、工夫した。</p> <p>コロナ禍の中、全員出席はできなかったが、忌憚のない貴重なご意見をいただき、参考になった。</p> <p>各支部の役員選出法について新たな取組を検討していたが、現状では難しい。</p>	○ 他県の高校のホームページなどを参考にしながら、学校の様子がわかりやすく、さらに魅力あるものにしていきたい。
	<p>5) コミュニティ・スクールに向けた準備を進める。</p>	<p>5) 学校と地域の特色や強みを生かす、コミュニティ・スクールの仕組みづくりに取りかかる。(令和4年度から実施)</p>	<p>5) 予定通り令和4年度から実施できるよう、計画の立案などを行うことができた。</p>	A		○ 7月、12月、3月の年間3回のコミュニティ・スクール協議会を開催したい。
活動計画		活動計画の実施状況				
<p>1) ① ・中学生体験入学では在籍生徒の積極的な活動を取り入れ、より魅力的なものになるよう改善する。 ・理数科の課題研究発表会を中学生向けに実施する。</p> <p>② 学校公開を年間1回以上実施し、WEBの視聴もできるようにする。</p> <p>③ 阿南・羽ノ浦・小松島・美波・鷺敷地区で本校の教育活動等について説明する。</p> <p>④ 上勝中学校・小松島中学校から牟岐中学校・木頭中学校間にある中学校を訪問する。</p> <p>⑤ 各中学校の進路担当者を対象とする説明会を行う。</p>		<p>1) ① Webでの実施となったが、理数科紹介や部活動紹介には生徒が出演し、視聴者にも好評であった。次年度もより一層魅力的な行事になるよう分析、検討したい。</p> <p>② Webでの実施となったが、約80名の方に御視聴いただき好評であった。</p> <p>③ 地域での説明会を5カ所で開催し、合計の参加者は360名であった。富岡公民館は参加希望者が多く2日に分けて行った。</p> <p>④ 合計17校の中学校主催の進路説明会に出席し、訪問中学校出身者の進路や本校における学校生活の様子を報告するとともに、本校の概要を説明することができた。</p> <p>⑤ 中学校主催の進路説明会に出席し、訪問中学校出身者の進路や本校における学校生活の様子を報告するとともに、本校の概要を説明することができた。</p>		<p>今年度は中学生体験入学と学校公開について、Webでの実施を行ったが、特に学校公開は例年平日の実施ということで参加者も少ないため、次年度は本校での実施とWebでの実施の二本立てを検討するなどの工夫が必要である。</p>		
<p>2) ① 更新担当者数を増やし、各課ごとで掲載記事を準備する等のホームページ運営組織を確立する。</p> <p>② 各課と相談して生徒に必要な情報は何かを検討し、在学生徒も利用しやすい情報を掲載する。</p> <p>③ 進路・情報課と総務・図書課で相談し、保護者・卒業生への情報発信を頻繁に行う。</p>		<p>2) ① 更新担当者は依然として数名ができる程度であるので、研修などを通してスキルアップに努めたい。</p> <p>② 試験の日程やお知らせプリント等必要なものはPDFファイルにして公開してきたが、各課との密な相談はまだ不十分である。</p> <p>③ 総務・図書課と相談し、保護者・卒業生への発信や同窓会の連絡などは行ってきた。</p>				
<p>3) ① 5月と1月に学校評価推進委員会を開催する。また、7月と3月に学校評議員を招いて学校関係者評価を実施する。</p> <p>② 予め資料を配付し、熟読していただくことで具体的な提言をいただくとともに会議の効率化を進める。</p>		<p>3) ① 会議前に予め資料を配付し、協議内容も精選し、効率よく会議ができ、時間短縮ができた。</p> <p>② 今年度はコロナウイルス感染症防止のため、特に緊張感を持って、物事に取り組み、教員同士の情報共有に努めた。特に、飲酒運転・ハラスメント防止の研修は時間をかけて行った。</p>				

	4) ① 役員会の開催については、文書及びホームページで案内する。 ② 広報に努め、ハガキ・新聞・ホームページで案内する。また、電話などの問い合わせに丁寧に対応する。	4) ① 役員会の開催にあたっては本部役員、各支部長に限定し案内をした。すべての役員には、文書・役員一覧を送付し、役員会の決定をもっての決議を了承いただいた。 ② 牛岐同窓会総会は中止となったため、本部役員会のみ実施し、各回期役員には決定事項について報告を行った。広報活動の一つである、同窓会報誌『牛岐』は、予定通り発行する。			
	5) コミュニティ・スクール準備委員会を立ち上げ、学校運営協議会委員の選定を行う。	5) 学校運営協議会設置に関する意見書を作成と委員を選定し、令和4年度から予定通り立ち上げる準備を行った。			○ 学校運営協議委員に本校の教育方針・活動に意見を伺う必要があるため、学校要覧作成の時期の兼ね合いから年度当初に第1回の委員会を実施することが必要である。

◎ 7 教職員が専門的な力量を含めた教育力・人間力を総合的に高めることに努める (教務課, 進路・情報課, SSH課, 教頭先生)

重点課題		自己評価		学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策
重点目標		評価指標と活動計画		評価		
		評価指標	評価指標の達成度	評価	総合評価	
教職員が専門的な力量を含めた教育力・人間力を総合的に高めることに努める。	(全校レベル) I) 教職員の資質向上 II) コンプライアンス推進 III) 危機管理意識の向上 (分掌レベル) 1) 校内研究授業等の実施や校外の研修会等の参加により、教科指導力の向上を図る。	1) ① 本時の指導目標に即し、わかりやすい授業を行う。 ② 校外研修、Zoom研修、オンデマンド等に積極的に参加する。	1) ① 随時、教科会・年次会、相互参観授業・研究授業を行い、授業改善と指導力の向上に努めた。特にSSHの3つの目標・新課程における学びの視点を入れ込んだ授業参観シートを作り、相互参観がより授業力向上につながるよう工夫することができた。 ② 10月には外部講師を招き、電子黒板について研修を行った。また、随時、情報担当教員の研修を個々で受け、積極的に活用につなげることができた。SAの指導を受けている柏木先生の動画配信など、よりよい授業作りについて研修を深めることができた。	A	(評定) B (所見) 生徒の成績向上が見られ、特に3年次ではブロック大学合格者を出すことができた。	○ 各教科間・年次間・進路課との連携を一層密にし、ビジョンを持って、個々の学力を身につけていくことが必要である。
	2) 校務運営体制の効率化と充実を図る。	2) 働き方改革の観点から各課長を中心に業務の精選を図り、原則会議は60分以内、部活動は20時までには終了する。	2) 教職員への会議資料事前配布や部員への部活動メニューの事前配布により効率化を図った。	B	ある程度の時短が達成できた。	
	3) 研修等の実施により、コンプライアンス意識の高揚に努める。	3) 公務員としての自覚と誇りを持ち、服務規律を遵守し、県民の模範となるように努める。	3) 教職員の交通事故が昨年度の3件から今年度は2件に減り、交通違反も昨年度の2件から今年度は0件となった。	B		○ 交通事故・違反とも0にする。また、今年度も県内で公務員による不祥事が発生した。より、有効性のある工夫を凝らした研修を行いたい。
	4) 「風通しのよい職場環境」づくりに努め、「働き方改革」の取組を推進する。	4) 風紀の保持及び規律の確保、風通しの良い職場づくりを推進するため、コンプライアンス啓発・研修を年30回以上、管理職と職員の面接を年2回以上実施する。	4) コンプライアンス啓発・研修を年40回以上行った。職員との面談も年2回以上実施した。	A	コンプライアンスの徹底と風通しの良い職場づくりができた。	○ 回数だけでなく、研修の質の向上を図りたい。
	5) 機会を捉え、職員の危機管理意識を喚起する。	5) 緊急時の対応について、教職員の共通理解を図り、対処法について学ぶ機会を年1回つくる。	5) 年間3回以上、HR活動や職員会議等で機会を見つけて共通理解を図った。	B		
	6) 新型コロナウイルス感染予防を徹底し、保護者にも協力を仰ぐ。	6) 手指消毒・換気・密の回避の徹底、不織布マスクを推奨していく。また、部活動においても手指消毒・換気・密の回避の徹底し、終了後は短時間で着替えをし帰宅することを徹底する。	6) 新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底してしたが、クラスターが発生した。	C	感染症対策については、さらに組織的な取組が必要である。	○ 昼食時や教室の移動等、場面が移り変わる時の指導をより徹底させていく。

7) 心肺蘇生法やAED使用法等の研修を実施する。	7) 命を守るための適切な対処方法について、教職員の共通理解を図り、具体的に学ぶ機会を年1回つくる。	<p>活動計画</p> <p>1) ① 6月と10月に授業研究月間を設け、それぞれ2回(計4回)以上参加し、必要に応じ授業研究会を行う。</p> <p>② 委員会、教育会等が主催する研修会を周知し、参加を促進する。</p> <p>2) 予め、会議資料の配付し、会議の効率化を図り、また部活動でも顧問と部員とが練習メニューの共有化を図り、練習の効率化を図る。</p> <p>3) コンプライアンス研修を年間30回以上行い、必要に応じて特設コンプライアンス研修を行う。</p> <p>4) 校長との面談月間を年2回設けるとともに、必要に応じて校長・教頭と面談を行う。</p> <p>5) 危機管理意識の向上を図る心肺蘇生法やAED使用法等の研修を行う。</p> <p>6) 生徒玄関の手指消毒液を増やし、教室の2カ所の出入り口にも手指消毒液を置く。また、保護者に対しても紙媒体やホームページ等でコロナウイルス感染症予防のための啓発を行う。</p> <p>7) 救命救急士を招き、心肺蘇生法やAED使用法などの研修会を実施する。</p>	7) 災害発生時の避難訓練や対処法について年3回実施した。	B	<p>コロナ禍の中、完全な形では実施することは難しかったが、緊急時への対処法は理解できた。</p> <p>ある程度、保護者の理解を得ることができた。</p>	<p>○ 来年度は、口頭でなく、実践的な訓練を行いたい。</p> <p>○ 来年度は口頭説明でなく実践訓練を行いたい。</p> <p>○ 来年度は口頭説明でなく実践訓練を行いたい。</p>
		<p>活動計画の実施状況</p> <p>1) ① 授業観察視点シートを活用し、授業者への提言・助言等を行い、参観者も自身の授業改善・指導力向上につなげることができた。全教職員が授業参観計3回以上参加できた。</p> <p>② オンラインでの研修が多かったが、研修機会を周知し、積極的な参加を呼びかけた。</p> <p>2) 教職員への会議資料事前配布や部員への部活動メニューの事前配布により効率化を図った。</p> <p>3) 特に、勤務区分の明確化、体罰・ハラスメント防止の研修は時間をかけ行った。年間30回以上。</p> <p>4) 校長面談は予定通り5月と2月に実施した。教頭との面談は必要に応じて実施した。</p> <p>5) エビペンやAEDの使用方法を生徒や教職員に口頭で説明した。</p> <p>6) 生徒・保護者への啓発文書を数回発行し、HPにも掲載をした。</p> <p>7) コロナ禍で救命救急士を招いての研修はできなかったが、機会を見つけて養護教諭等が口頭説明を行った。</p>				

◎ 8 SSH事業の推進に努める (SSH課, 国際・企画課, 進路・情報課)

重点課題		自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価				
		評価指標	評価指標の達成度	評価	総合評価		
科学的探究活動から地域社会をイノベーションする人財育成に資するカリキュラムの開発に努める。	<p>(全校レベル)</p> <p>I) グローカルな視点に立ち、科学的思考によって課題を発見する力の育成に努める</p> <p>II) 他者との協働による課題を解決する行動力・コミュニケーション力の育成に努める</p> <p>III) 未来につながる新しい価値を創造する力の育成に努める</p> <p>(分掌レベル)</p> <p>1) SS, SAや自然科学部活動の充実を図り、生徒のプレゼンテーション力や高度な思考力の育成を図る。(思考力・判断力・表現力)</p>	<p>1) ① SS・SAでの課題研究の深化のため、構想発表会・中間発表会・最終発表会等を行う。</p> <p>② 自然科学部活動を充実させ、各種発表会・科学展などに出席する。</p> <p>③ 大学・企業・専門機関等との連携を密にして、スペシャリストアカデミー・トップリーダーセミナーを開催する。</p>	<p>1) ① 2月に予定していた普通科・理数科課題研究合同発表会は新型コロナウイルス感染症の影響により中止したが、その他の発表会は予定通り実施した。生徒にとっては、自らの研究について振り返る機会、研究計画を再考する機会となった。</p> <p>② 第78回徳島県科学作品展において特選に選出された。</p> <p>③ スペシャリストアカデミーは2回、トップリーダーセミナー2回16講座を実施した。</p>	A	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>本年度のSS・SAは新型コロナウイルス感染症の影響により中止したプログラムもあるが、時期を変更するなどして概ね実施した。「科学的思考力・探究力が向上した」との回答は生徒81%、教員92%、また、「地域の課題について考える契機となった」との回答は生徒82%、教員92%であった。生徒の充実感が高まるような活動となってきた。</p>	<p>SSHの取組で得られた成果(生徒の活動・機器の充実・教員の取組など)をしっかりと中学生に発信してほしい。</p> <p>SSHの指定前と指定後とを比べると、教員間のベクトルの方向が同じ方に向いているように感じられる。目標に向けて動いているのは評価できる。</p>	<p>○ 各種の発表会や科学作品展に参加することを意識して課題研究に取り組んでいけるよう、発表会動画の視聴や課題研究に関する研修会参加などを積極的に取り入れた指導に努めていきたい。</p>

2) 各教科科目においてアクティブラーニングやICTの活用による授業改善に努め授業内容の充実を図る。 (「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」)	2) ① アクティブラーニング型授業やICTを活用した授業について検討・実践する。 ② 授業改善の取組に資するため、公開授業を実施する。	2) ① 授業改善プロジェクトチームを中心に、各教科と連携して授業改善について検討・実践した。授業参観シートや参観方法の改善、来年度に向けての授業評価の検討などが行われた。また、本年度設置された電子黒板や全生徒に配付されたタブレットを活用した授業の研究を始めた。 ② 2月9日に公開授業を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により公開を中止した。	B	授業改善プロジェクトチームを中心にした授業改善の取組を継続させていくことが必要である。	○ 授業改善プロジェクトチームをより一層機能させ、導入予定の電子黒板の活用法など、学校全体で授業改善に取り組んでいきたい。
3) 台湾海外研修を実施して、グローバルな視点の育成を図り、各自の研究成果に活かす。(主体的に学習に取り組む態度)	3) ① 台湾海外研修を実施し、異文化理解の向上を図る。 ② 研究成果のプレゼンテーション力を上げるために、タブレットを効果的に活用する。 ③ 外部講師の助言を活かして研究成果を高め、校外のコンテストにも積極的に参加する。	3) ① 台湾海外研修は中止となった。 ② 台湾国立新化高級中學とオンラインでの交流を5回実施した。台湾文化への理解を深めるとともに、自分自身や地域社会等について考える機会となった。1人一台タブレットが使用可能となり、教室にWi-Fiが整備されたこともプレゼンテーション力向上につながっている。 ③ 台湾とのオンライン交流では、理数科の取組やSA発表の内容を英語で紹介する機会を設けた。英語発表に興味を持ち、徳島県高等学校英語弁論大会に出場した生徒もいた。	B	台湾海外研修参加生徒のほとんどが、現地高校生との交流や自身のコミュニケーション力向上を大きな目的として、取り組んでいる。SSH事業としての目的達成を目指した研修を企画する必要がある。	○ SSやSAでの研究テーマなども参考にしながら、台湾海外研修における研修内容について検討し、生徒にとって魅力あるものとなるよう努めていきたい。
4) 教科横断的な視点をもって、地域が抱える諸問題への理解とその解決への意欲を高める。(主体的に学習に取り組む態度)	4) ① 地域の医療関係機関等が主催する研修会等への参加を積極的に呼びかけ、研究の充実を図る。 ② 地元自治体が主催する地域活性化等の協議会等への参加を積極的に呼びかけ、多面的な理解を図る。	4) ① 参加を予定していた研修会や協議会等の多くが中止・内容変更となったが、地域の医療従事者との交流会に多くに生徒が参加した。 ② まちマルシェなど、参加できる機会を捉えて参加する生徒が多かった。	B	各種の研修会や協議会等についてより一層の周知に努め、地域社会への理解を高める機会をさらに作っていく必要がある。	○ 地域の課題に気づき、その解決に向かって取り組んでいこうとする態度を育てられるよう、多くの情報を集め取捨選択して生徒に周知できるよう努めていきたい。
5) 取組について広報活動を充実させる。	5) ① 活動の様子や取組の成果などをホームページで公開する。 ② 活動や今後の予定などを周知する広報紙を作成する。	5) ① SS、SAでの取組を中心に活動の様子をその都度ホームページで公開することができた。 ② 広報紙「TN-SCOPE news」を年間3回発行することができた。	A	広報活動について肯定的な回答は生徒72%、保護者76%であり、教員の98%と大きな差がある。伝え方、頻度について検討を重ねていきたい。	○ 広報の内容や頻度について検討し、保護者や地域社会にとって本校SSH事業が分かりやすいものとなるよう努めていきたい。
	<p>活動計画</p> <p>1) ① 課題研究に関する年間指導計画を確立させ、研究の深化を図り、校外の発表会・作品展等で発表する。 ② 自然科学部活動を充実させ、研究活動を行い、科学展や発表会に参加する。 ③ 課題研究のテーマや研究内容に関わる領域の講師を招いて、スペシャリストアカデミーやトップリーダーセミナーを実施する。</p> <p>2) ① 授業改善等について検討する各教科代表者からなる組織を立ち上げ、検討を進める。 ② 関係各課・科と連携して、2学期または3学期に公開授業を実施する。</p> <p>3) ① 訪問・研修予定の学校・機関との連携を密に行うことで、交流計画を作成する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>1) ① SSH課題研究等研修会に参加して課題研究の在り方について学習した。全国・四国・県のSSH生徒研究発表会で発表した。 ② 課題研究や天体観測を行った。徳島県科学作品展に応募し、特選に選出された。 ③ スペシャリストアカデミー、トップリーダーセミナーをそれぞれ2回開催し、延べ18名の講師の方の講義を受講した。</p> <p>2) ① 授業改善プロジェクトチームを中心として、SSHの目標を達成できる授業改善の取組について検討した。 ② 2月9日に、各教科での授業改善の取組成果を公開する予定であったが、新型コロナウイルス感染症のため中止した。</p> <p>3) ① 台湾海外研修は中止となった。</p>			

		<p>② タブレットの活用を促進し、自らの課題研究の内容や本校の特色、地元自治体の取組などについてまとめる事前研修や、本校ALT・英語教員、非常勤講師(中国語)によるコミュニケーション能力向上研修を実施する。</p> <p>③ 大学等が主催するコンテストの募集について、全校生徒に周知する。</p>	<p>② 台湾国立新化高級中學とのオンラインでの交流を実施した。自己紹介・学校や地域の紹介を英語で行う交流を通して、台湾文化への理解を深めるとともに、自分理解や地域社会の一員であることの自覚を深めることができた。</p> <p>③ 大学等が主催するコンテストの募集について、全校生徒に周知した。徳島大学主催2021SMARTに1・2年次2チームが参加した。</p>			
		<p>4) ① 医療や福祉に関する活動に参加しようとする意欲を高めるため、関係機関と連携する。</p> <p>② 研修会・協議会等に参加しようとする意欲を高めるため、地元自治体等と連携する。</p>	<p>4) ① 実施連絡のあった活動について積極的に周知し ② て参加者を募った。各種交流会・研修会に延べ100名を超える生徒が参加した。また、「新未来セッション」では知事との対談の中で地元活性化に関する提言を行うこともできた。</p>			
		<p>5) ① 活動の様子や成果について随時ホームページで公開する。</p> <p>② 近隣中学校や保護者へ活動内容・成果を知らせる広報紙を作成し配布する。</p>	<p>5) ① 活動をその都度ホームページで公開するとともに、より分かりやすいものなるようSSHのページを再構築した。</p> <p>② 広報紙「TN-SCOPE news」を3回発行し、阿南市役所・富岡郵便局・富岡東郵便局・阿南宝田郵便局・富岡公民館など計6カ所に置かせてもらうことで、学校関係者だけでなく地域住民の方々への広報にも努めた。</p>			